

京都市立工業高校改革の経過（平成 16 年度～）

年度	内容
平成 16 年度 (平成 16 年 12 月～ 平成 17 年 3 月)	<p>京都市立高校における今後の工業教育のあり方に関する検討プロジェクト</p> <p>市立工業高校について、学校組織のあり方、教員の資質向上策等の学校経営・学校運営や専門学科・定時制のあり方等の観点から、時代の先を見据えた新しい工業教育の創造を要請。</p>
平成 19 年度	<p>平成 16 年度プロジェクトの提言の具体化を図ることを目的に策定された「京都市立工業高校改革・基本方針」を踏まえ、平成 19 年 4 月より、洛陽工業・伏見工業高校の学科を全面改編し、新学科を設置。</p> <p>【全日制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 従来の専門学科（小学科）を廃止し、「ものづくり」を通じた豊かな人間教育の実践を目指した新学科を設置。 ○ 入学後、1 年間、工業に関する共通の学習内容を幅広く履修したうえで、2 年次から生徒の希望や進路目標に応じて選択できる特色ある専攻コースを設置。 <p>＜洛陽工業高校＞ 新学科「創造技術科」 「ものづくり」の基盤となる技術として、同校の長い伝統の中で培われ、産業界に優秀な技術者を輩出してきた実績を有し、現在も産業界から強い要請のある電気・電子系及び機械系を中心とするコース。</p> <p>＜伏見工業高校＞新学科「システム工学科」 「まちづくり」の基盤となる技術を学ぶことができる市内唯一の設置学科として、長い伝統に裏打ちされた独自の教育ノウハウと実績を有し、地元産業界の期待も大きい建築・土木系を中心とする各コース。</p> <p>【昼間定時制】 伏見工業高校に企業長期実習など働くことを通じて学ぶ、「京都版デュアルシステム」を導入した昼間定時制を新たに設置。</p>
平成 22 年度 (平成 21 年 11 月～ 平成 22 年 7 月)	<p>京都市立工業高校のあり方に関する検討プロジェクト</p> <p>平成 19 年度の改革における取組の成果・課題を総括するとともに、今後の工業高校のあり方や役割を明確にするなど市立工業高校の更なる発展に向けた改革の視点を提言。</p> <p>＜市立工業高校に求められる役割＞ 産業界が求める人材育成、大学進学希望者のニーズに応える教育の充実、小・中学生にとって魅力ある教育活動</p> <p>＜市立工業高校のさらなる発展に向けて＞ 「ものづくり」への興味・関心の喚起、両工業高校の連携、教員の資質向上</p>
平成 23・24 年度 (平成 23 年 8 月～ 平成 24 年 12 月)	<p>京都市立工業高校将来構想委員会（詳細は資料 1 を参照）</p> <p>市立工業高校がより魅力ある学校として発展し続けることを目指し、平成 22 年度のプロジェクトで示された方向性を具体化する方策や学校の規模、施設整備等について幅広く提言。</p>